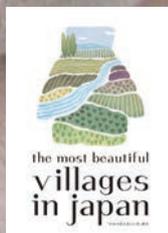


広報 ⊕  
No.720  
令和6年

# いいたて2



『飯館村子育て支援センター』開放日の様子を紹介します。



飯館村は子ども・子育て支援事業に力を入れています



例えば…〈飯館村赤ちゃん誕生祝金〉〈子育て応援支援金〉は、令和5年4月1日にスタートした村独自の子ども・子育て支援事業。赤ちゃん誕生から高校入学まで、子育て世帯を手厚く支援します。詳しくは右上のQRコードから。

子育て支援センターに笑顔が集まりました

冬休み期間にセンターを開放

冬休み期間の1月6日・7日に、『飯館村子育て支援センター』を開放しました。開放日の施設利用は、0歳の乳児から小学6年生までを対象とし、保護者同伴で、さまざまな遊びを楽しんでいただきました。

子ども達と子育て家庭のためにつくられたこの素敵な施設を活かしていこうと、村は開所の準備を進め、昨秋から、イベントや相談会に活用できるようになりました。センター内には、木製の大型滑り台が置かれたホール、絵本がディスプレイされた児童書コーナー、乳幼児向けの木製遊具を集めた部屋や和室など多様な遊び場があり、各年齢層に適した遊び道具も幅広く用意されています。

お知らせ

春休み期間にも開放日を計画しています。詳細が決まり次第、お知らせ版に掲載します。

飯館村子育て支援センター  
飯館村飯樋字町483番地  
問 健康福祉課福祉係  
☎0244-42-1633

現在は、イベントや相談会にセンターを使用し、今後のよりよい活用方法を検討しています。

〈略地図〉



ハウス栽培で真冬も出荷。村を彩るアルストロメリア。

目次 CONTENTS

- 02 話題「子育て支援センターを開放」
- 04 報告「令和5年飯館村10大ニュース!」
- 06 特集1「第6次総合振興計画後期計画」
- 10 特集2「読書メッセージコンテスト」
- 12 空から百景「冬木立に囲まれて」
- 14 特集3「飯館村二十歳の成人式」
- 16 ほけんとふくし「フレイル予防」
- 17 学びの広場「だんごさし」ほか
- 18 いいたて便り
- 20 話題のパレット
- 22 村からお知らせ
- 24 いいたてイノサル通信
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 いいたてDIARY／村民広報委員コラム
- 27 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS／生活応援商品券

今月の表紙



「いいたていちごランド」でイチゴを栽培する佐藤博さん・洋子さん夫婦(二枚橋・須萱)のご厚意で、いいたて希望の里学園とまていの里のこども園の子ども達が、イチゴ狩りを体験しました。詳しくは裏表紙の記事をご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係☎0244-42-1613までお知らせください。

令和5年  
10大NEWS  
結果発表!

あなたが選ぶ村のニュースベスト10!

皆さんの投票で決定した10大ニュースで令和5年を振り返ろう

皆さんの投票でその年の10大ニュースを決定する『あなたが選ぶ村のニュースベスト10』。昭和63年から続いている飯館村恒例のイベントで、今回で36回目を迎えました。

昨年末に募集を開始。ご応募いただいた653票を集計し、令和5年の10大ニュースが決定しました。結果の発表を通して、令和5年の飯館村を振り返ってみましょう。

また、この結果を元に、今回も「飯館村10大ニュース」の動画を制作します。動画の公開は、動画投稿サイト「ユーチューブ」の飯館村公式チャンネルで行います。フレッシュな役場職員が出演して、令和5年のニュースを紹介します。ぜひお楽しみください。



1

331票



『ほやま湖まつり』復活開催!

7月22日、大倉地区のはやま湖畔で、『ほやま湖まつり』が開催されました。令和4年に3年ぶりの花火大会が開催されたのに続き、令和5年は『ほやま湖まつり』が震災後初の復活を遂げました。大倉行政区・上柘窪行政区(南相馬市)・もりの駅まごころ運営協議会が実行委員会を組織して主催。また、村と県が後援、福島県治水協会の協賛もあり、多くの観客を迎え、賑やかに開催されました。



2

311票



トキの飛来を村内で初観測!

11月25日、国の特別天然記念物に指定されているトキの飛来が、村内で初めて確認されました。目撃されたのは道の駅までの周辺で、その後1週間ほど同じエリアの水田で餌をついばむ様子が目撃されました。



3

279票



交通事故死者ゼロ2000日達成

3月10日に、交通事故死者ゼロ2000日を達成しました。村ではこれまで1000日を達成したことが5回ありましたが、2000日達成は村史上初の快挙です。3月17日に村役場で表彰伝達式が行われ、県の表彰を受けました。

最多8問正解で金賞GET!

8問正解した方は1人のみでした! いたて希望の里学園の英語の先生で現在8年生を担当する根本奈於さんが金賞に輝きました。

金賞の賞品は5万円分の旅行券!

金賞の感想を一言!

金賞が当たるなんて...! 本当にびっくりしましたが、とてもうれしいです。サプライズで両親を旅行に連れて行きたいと思います。飯館村に来て3年目、10大ニュースも3回目の応募でしたが、今回は過去2回分の結果を参考に応募してみました(笑)



根本奈於さん  
(いたて希望の里学園)

家族想いの根本先生...ステキです  
おめでとうございます!

10大NEWS  
発表動画  
近日公開!

公開日は村HP等でお知らせします。



飯館村10大ニュースの詳しい発表はYouTubeの飯館村公式チャンネルで!



左のQRコードから。または「飯館村10大ニュース」で検索してね!



10

220票



飯館産黒毛和牛精肉販売会  
10月19日、道の駅までい館が開催。開店前から行列ができ、約200パックが完売に。

9

233票



『セブンあんしんお届け便』スタート  
8月8日、セブンイレブンが移動販売をスタート。高齢者世帯の見守りにも活躍します。

8

255票



『肉のゆーとぴあ』がオープン  
7月、山田豊さん(関根松塚)が生産から販売までを手がける精肉店がオープンしました。

7

261票



飯館復興の桜『桜まつり』を開催  
4月9日、會田征男さんツタ枝さん(伊丹沢)の「飯館三千本の復興桜」で、3年ぶりの開催。

6

268票



株式会社ハンドラッグと協定を締結  
4月24日に協定を締結。生活環境の利便性向上、地域経済の振興に取り組みます。

5

271票



『飯館村敬老会』3年ぶりの開催  
9月10日、コロナ禍を経て3年ぶりに開催。敬老者約200人が笑顔で交流しました。

4

277票



長泥地区の一部で避難指示解除  
5月1日、特定復興再生拠点区域と区域外の長泥曲田公園で避難指示が解除されました。

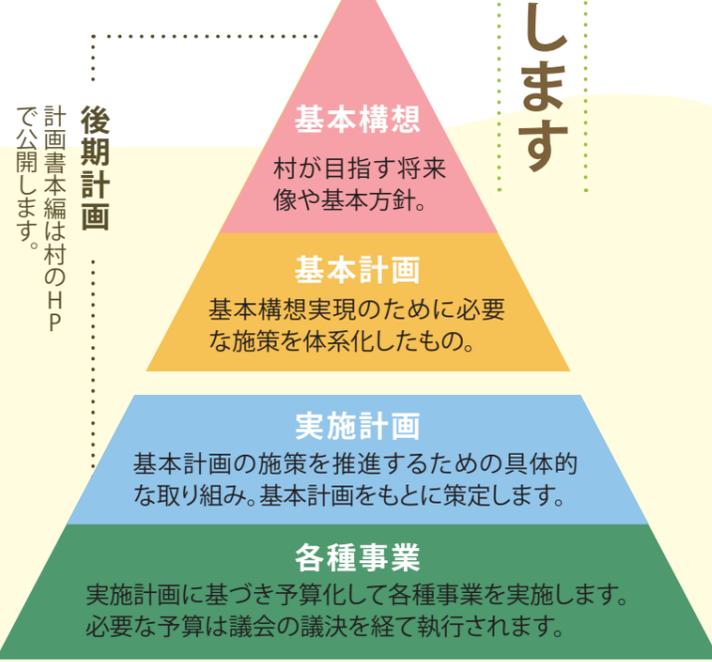
# 飯舘村第6次総合振興計画

後期計画についてお知らせします

飯舘村第6次総合振興計画（以下「6次総」）は、震災からの復興事業が継続する中、並行して新たな村づくりを進めるために策定されました。めまぐるしく変化する社会情勢に対応するため計画期間を5年間とし、中間年度に見直しを行うことも計画に明記しました。このため令和5年度は、この計画の中間見直しを実施し、「後期計画」を策定しました。

今回の見直しの結果を反映した「後期計画」は、基本構想の中に、村民の皆様や策定委員の方々の議論によって紡ぎ出された4つの方針を「前期計画」から継承し、それに基づく施策を基本計画の中で再整理しました。また、村としては初めて人口動態予測を示しています。計画の見直しに合わせて、人口動態予測をもとに、数値目標を示した人口増加策を提示しました。その目標の達成に向けて施策や事業を整理し、各部署が横断的に人口増加策に注力していきます。

## 第6次総合振興計画 5か年計画の中間見直しを実施 令和5年度から7年度までの「後期計画」を策定しました



**■総合振興計画（総合計画）とは**  
総合振興計画（総合計画）とは、地方自治体における行政運営の最上位の計画です。将来の目標や施策を行政と住民が共有し、地域づくりの基本的な指針とするものです。

**■6次総「後期計画」策定の背景**  
自然災害の激甚化や感染症の世界的流行、戦争などが人々の生活に影響を及ぼし、また、デジタル社会の進展や環境対策の強化など社会情勢にも変化が生じています。  
一方、村内・村外居住者、移住者など村民それぞれの活躍により、数々の事業が実現に向かって進んでいます。  
これらを踏まえ、基本方針を継承して計画を体系的に再整理し「後期計画」を策定しました。見直し前の計画を、今後は「前期計画」と呼称します。

## ■後期計画における飯舘村の人口目標

医療・福祉・子育て支援など、自治体サービスの根幹を支えているのは「人口」です。少子高齢化が顕著な現代において「人口対策」に計画的に取り組むことが必要不可欠です。

住基人口、村内居住人口、村外居住人口、なりわい人口、関係人口、交流人口など、さまざまな「人口」がある中で、本計画では、「なりわい人口」と「村の人口（住基人口）」の2つに短期的・中期的な目標を設定しました。

**なりわい人口**  
約**1,570人**  
2030年に

**村内の「なりわい人口」を増やします**  
「なりわい人口」=住民票の有無にかかわらず、村で「生業（なりわい）」に携わる全ての人のこと。  
施策により、2022年の1,400人から、2030年までに約170人の増加を目指します。  
※170人の内訳・・・農林畜産業従事者を約50人増、企業社員・個人事業主等を約120人増

**村の人口**  
約**4,200人**  
2030年に

**「村の人口（住基人口）」の減少スピードを緩やかにします**  
「村の人口（住基人口）」=飯舘村の住民基本台帳に記載されている人口（法に基づく自治体人口）のこと。  
施策により、2030年の推計値 3,985人のところ、約215人の増加を目指します。

村民はもちろんのこと、「なりわい人口」「関係人口」などを構成する全ての人々が「ふるさとの担い手」です。「ふるさとの担い手」が共に力を合わせて各種の施策・事業を展開していくことで、人口目標の達成を目指します。

## ■6次総「後期計画」策定の流れ

- 令和4年
  - 9月14日 第1回庁内ヒアリング
  - 9月20日 第2回庁内ヒアリング
  - 9月28日 第3回庁内ヒアリング
  - 10月3日 第4回庁内ヒアリング
  - 10月4日 第5回庁内ヒアリング
  - 12月8日 第1回策定委員会
- 令和5年
  - 1月24日 第2回策定委員会
  - 2月28日 第3回策定委員会
  - 10月1日 住民懇談会①②
  - 10月7日 住民懇談会③④
  - 10月13日 議会説明
  - 10月14日 住民懇談会⑤
  - 11月7日 パブリックコメント開始
  - 11月17日 第1回振興計画審議会
  - 11月21日 パブリックコメント終了
  - 12月1日 第2回振興計画審議会
  - 12月13日 議会説明
  - 12月15日 議会議決および承認

※「前期計画」の4つの基本方針をそのまま引き継いだことから、専門部会を開催せず、策定委員会、審議会、議会での審議を経て「後期計画」が承認されました。

## ■飯舘村が策定したこれまでの総合振興計画等

- 昭和43年 村勢振興計画
- 昭和52年 飯舘村総合計画
- 昭和60年 飯舘村第3次総合振興計画
- 平成6年 飯舘村第4次総合振興計画
- 平成16年 飯舘村第5次総合振興計画
- 平成23年 いいたてまでいな復興計画
- 令和3年 飯舘村第6次総合振興計画

平成16年度から10年間を実施期間としていた第5次総合振興計画は、震災により中断され、平成23年に「いいたてまでいな復興計画」（第1版）が策定されました。

第6次総合振興計画は、令和元年9月に策定委員会を立ち上げ、多くの村民や有識者の協力を得て策定されました。

村の将来像

明日が待ち遠しくなるような、わくわくする楽しいふるさと

村民が参画した前期計画策定時の基本方針を踏まえながら、村の将来像を再定義し、政策とも連携させ、体系化して再整理。計画の実行性を高めています。

飯館村第6次総合振興計画「後期計画」の概要

各項目の詳細な内容を記した計画の「本編」及び具体的な「実施計画」は準備が整い次第、村のホームページで公開します。

基本構想

1 産業・観光・移住分野

基本方針 どこに暮らしていても参加して楽しい新しい豊かさを感じる村へ

村に想いを寄せる方々との新しい関わり合いや村民の新しい暮らしを尊重し、新しい豊かさを感じる産業を作り出す村を目指します。

2 健康・福祉・環境分野

基本方針 ゆったり流れる時間の中で「元気かい？」から始まる心地いい関係のある村へ

温かな声かけから始める交流を通じて、生きがいを持って健やかに暮らすことのできる村を目指します。

3 学校教育・社会教育・文化分野

基本方針 いいたてに生きる精神文化を紡ぎ、自らに誇りをもつ村へ

ふるさとを改めて見つめ直す教育を通じて、子どもも大人もともにいたての文化を取り戻し、自らに誇りをもつ村を目指します。

4 防災・建設・行財政分野

基本方針 足もとからの将来づくりを「支え合い」で進める村へ

これまで村を支えてきた行政区の活動など、足もとの生活基盤やつながりを再び強め、支え合いを進める村を目指します。

共通重点項目

人口増加策

5つの政策

- ① 生きがいと生業の力強い再生と発展 ② 健康で生き生きと楽しく ③ 情報通信技術 (ICT) による新しい村づくり ④ ふるさと資源のフル活用 ⑤ 生き生きとした学びの場を育む

基本計画

産業 一人ひとりの関わり合いで力を合わせ拡大させるまでいブランド 観光 資源にひと手間加えて築く観光以上移住未満の関係 移住 モノや心を分かち合い、ふんわりやっこく迎える村

- 1 農畜産業の担い手の確保 2 農畜産業の環境づくり 3 まいでいブランドの確立・拡大 4 里山の再生と林業の活性化 1 商工業の振興 1 戦略的な観光への取り組み 2 いいたてファンの拡大 1 交流人口の拡大 2 移住・定住の促進

健康 食べて笑って楽しい健康づくり 福祉 「出番」を作るしかけづくり 環境 未来や心にやさしい環境づくり

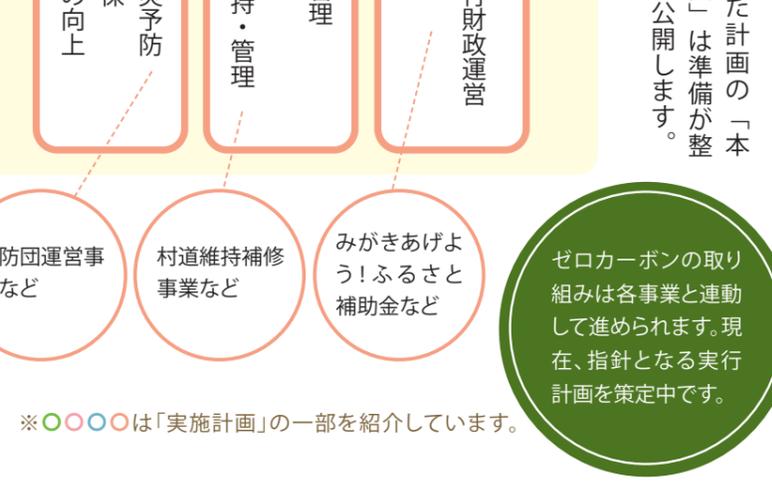
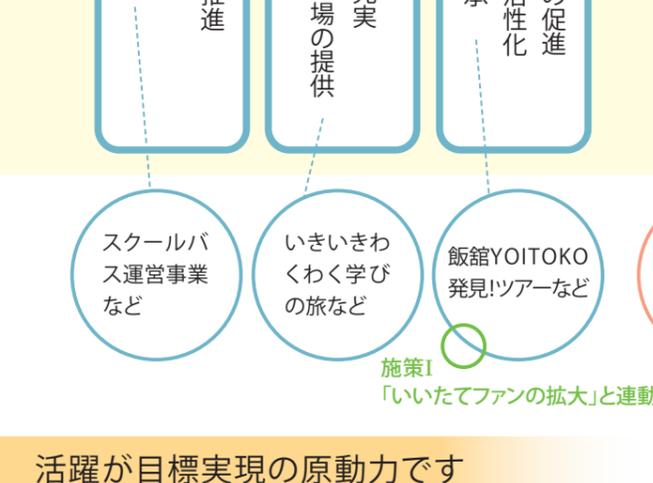
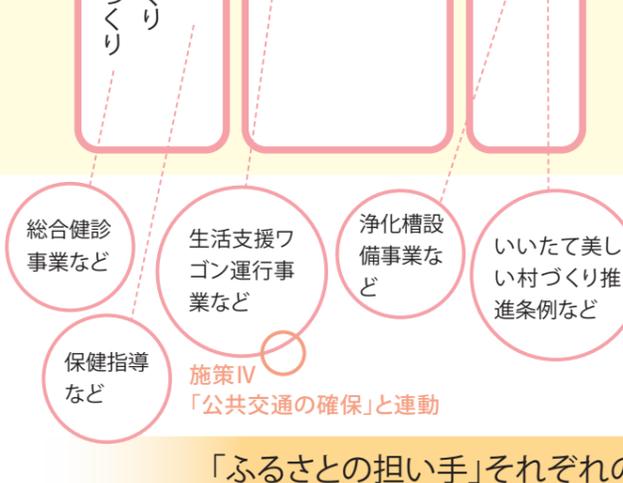
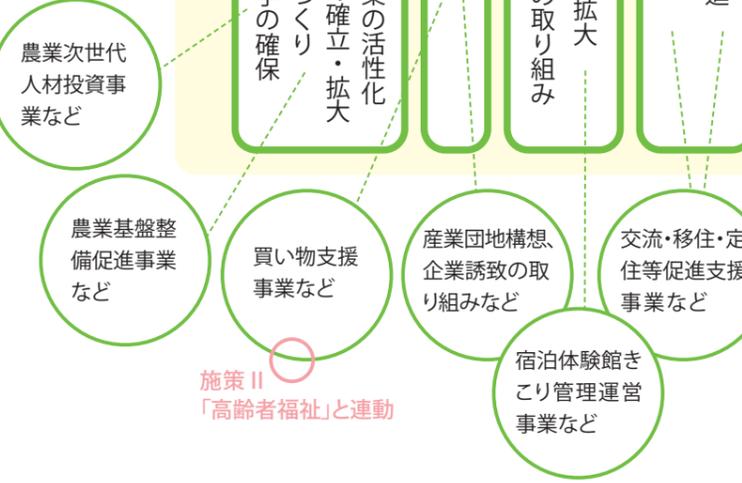
- 1 心と身体の健康づくり 2 食による健康づくり 3 医療の確保 1 高齢者福祉 2 子育て支援 3 障がい者福祉 4 生きがい支援 5 人材の確保 1 景観・環境美化 2 環境負荷の低減

学校教育 竹のようにしなやかに石のようにどっしりと自らに誇りを持つ教育 社会教育 ふるさとをみつめ、ふるさとに学び、ふるさとと歩む教育 文化 いいたてを語り、いいたてを喰み、いいたてと過ごす文化

- 1 教育環境の充実 2 教育活動の充実 3 特色ある教育の推進 1 生涯学習・学びの場の提供 2 スポーツ活動の充実 1 文化・芸術の継承 2 暮らしや文化の活性化 3 芸術・文化活動の促進

防災 自分たちの安全は自分たちで守る強靱な地域防災 建設 助け合いで築く誰もが安心できる暮らし 行財政 連携して課題に立ち向かえる自立した地域

- 1 住民の防災意識の向上 2 安全・安心の確保 3 防犯・消防・火災予防 1 道路・河川の維持・管理 2 公共交通の確保 3 住環境の維持・管理 1 村民参画の推進 2 DXと効率的な行財政運営



「ふるさとの担い手」それぞれの活躍が目標実現の原動力です

※○○○は「実施計画」の一部を紹介しています。

ゼロカーボンの取り組みは各事業と連動して進められます。現在、指針となる実行計画を策定中です。

私の1冊を紹介します

# 第24回 読書メッセージコンテスト

## 素敵な本と出会いましょう

おすすめの本の紹介文を幅広い世代から募集する「読書メッセージコンテスト」。本との出会いが広がることを願って、村が毎年実施しているコンテストです。

第24回「読書メッセージコンテスト」の審査結果を公表します。入賞作品は、昨年11月の審査会で決定し、12月下旬に交流センター「ふれ愛館」といいたて希望の里学園で、表彰式を行いました。

素敵なメッセージをご応募いただいた皆様、ありがとうございました。



### 第24回 読書メッセージコンテスト 審査結果

(敬称略)

	氏名	おすすめの本・作者
最優秀賞	菊野八尋 (いいたて希望の里学園4年)	『カラスのいいぶん』嶋田泰子 著／岡本順 絵
優秀賞	鈴木愛斗 (いいたて希望の里学園2年)	『ムキムキだけじゃないぼくのきんにく』ミヤジュンコ 絵／いわまつ 監修
	福安夢七 (いいたて希望の里学園6年)	『ふたりのえびす』高森美由紀 作
	山田ゆり (いいたて希望の里学園8年)	『アップステージシャイなわたしが舞台に立つまで』ダイアナ・ハーモン・アシャー 作／武富博子 訳
	橋本雪那 (いいたて希望の里学園9年)	『絵で読む広島原爆』那須正幹 文／西村繁男 絵
佳作	落合庸子 (一般／飯館村役場)	『マンガ ぼけ日和』矢部太郎 著／長谷川嘉哉 原案
	長田緑 (いいたて希望の里学園3年)	『カレーライスほこわいぞ』角野栄子 作／佐々木洋子 絵
	庄司心羽 (いいたて希望の里学園3年)	『りんごかもしれない』ヨシタケシンスケ 作
	赤石澤永輝 (いいたて希望の里学園8年)	『スクラッチ』歌代朔 作
	宮里時真 (いいたて希望の里学園9年)	『あなのあいたおけ』プレム・ラワット 作／城井文 絵／マックス・ウィトル 訳
高橋真弓 (一般／草野)	『塞王の楯』今村翔吾 作	

普段自分では選べない本との出会いを楽しんでね。



受賞者の皆さんがおすすめした本は、交流センター「ふれ愛館」で貸し出します。お気に入りの1冊を見つけてくださいね。

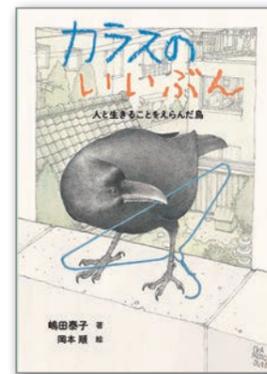
## 入賞作品から

読書メッセージを紹介します



最優秀賞 菊野八尋さん  
(いいたて希望の里学園4年生)

皆さんがよく見るカラスはハシブトカラスと言います。ゴミをあさって、汚いと言われるカラスですが、カラスにも言い分があるので、みなさんもカラスの言い分を聞いてあげてください。ちょっとカラスがかわいそうになるかも。

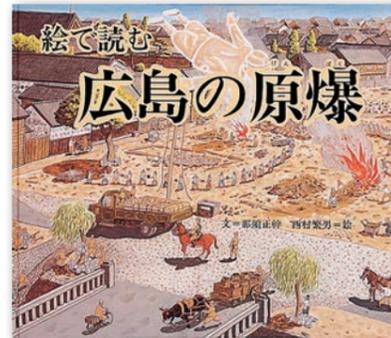


『カラスのいいぶん』  
嶋田泰子 著／岡本順 絵  
童心社



優秀賞 橋本雪那さん  
(いいたて希望の里学園9年生)

みなさんは、原爆の恐ろしさを知っていますか。この本には原爆が落ちる前と後の広島が解説を交えてリアルに描かれています。原爆の記憶は絶対に忘れてはいけません。残された私たちにできること、考えてみませんか。



『絵で読む広島原爆』  
那須正幹 文／西村繁男 絵  
福音館書店



優秀賞 落合庸子さん  
(飯館村役場)

認知症について、症状から対応方法まで大切なことが専門書並みに書いてある、なのにマンガでさらっと読めて心があたたまると本。認知症の方と関わる人だけでなく、いつかは年をとるすべての方に読んでもらいたい、素敵な一冊です。



『マンガ ぼけ日和』  
矢部太郎 著／長谷川嘉哉 原案  
かんき出版

緑の屋根の建物は、旧飯樋小学校の建物を改修して整備された『飯館村地域防災センター』です。かつての校庭には滑り台や雲梯(うんてい)などの遊具が残っています。道路をはさんだ向かい側には、『飯樋ふれあい公園(前山公園)』があります。地域の方がきれいに手入れをされていて、丘の上のパークゴルフ場も大いに活用されています。法面には植物で描いた「いいとい」の文字も見えます。広葉樹の冬木立が季節を留めていますが、大寒期とは思えない穏やかな陽射しです。1月半ばに本降りの“雨”が降るなど、暖冬の気候が続いています。(撮影日1月23日現在)



# 令和6年飯舘村二十歳の成人式

1月7日、交流センター「ふれ愛館」で成人式を開催しました。令和4年から成年年齢が18歳となりましたが、村では今年から「二十歳の成人式」と名称を改め、これまで同様、20歳となる学年の皆さんを対象に式を行い、今年は村の20歳、64人のうち24人が集いました。

小学1年生の時に東日本大震災を経験し、学生時代の多くを避難生活の中で過ごした皆さん。苦しみや葛藤を乗り越え、その経験をともに乗り越えた友人、家族はかけがえのない宝です。あの時まだ小さかった1年生は立派な大人になり、再会を喜ぶ素敵な笑顔を輝かせました。



特設のフォトスポットで記念写真を撮る皆さん。再会の時間を楽しみました。

一人ひとり、堂々と、凛とした表情で「二十歳の証書」を受け取る皆さん。



恩師との懐かしの再会に笑顔がこぼれます。あの頃の思い出を語り合いました。



誓いのことばを述べた成人式実行委員長の庄司優美さん(草野)。



出席者を代表して星楓太さん(上飯樋)、杉菜奈美さん(前田・八和木)が感謝のメッセージを発表しました。



## いいたて希望の里学園 1年生が「だんごさし」

1月11日、いいたて希望の里学園で、1年生が「だんごさし」を行いました。活動には、村民ボランティアとして、飯館村老人クラブ連合会の皆さんが協力しました。子ども達は、「だんごさし」の行事の意味や由来を教わりながら、赤・青・黄色などさまざまな色の団子をつくり、丸い形の他、繭の形もつくりました。形を整えた団子は茹でて冷まし、丁寧にみず木に挿しました。縁起物の飾りも付け完成した「だんごさし」は、玄関、校長室、廊下などに飾られ、1年生も「きれいだね」とうれしそうに見上げていました。



村の皆さんと触れ合いながら、伝統行事を体験しました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

## 大谷翔平選手から 野球グローブが届きました

メジャーリーガーの大谷翔平選手が、日本の全小学校に贈ったグローブが、いいたて希望の里学園にも届きました。箱の中に入っていたグローブは、右利き高学年用、右利き低学年用、左利き用の3点です。「みんなで野球を楽しんでほしい」という大谷選手のメッセージが伝わりますね。合成皮革製で柔らかく、小指の部分に大谷選手のサインが印刷されている特製のグローブです。1月25日に各教室をオンラインでつないで全校生にお披露目され、「大谷選手〜!」「さわりたい!」など楽しそうな声が聞かれました。



▲2年生の教室。

代表でキャッチボールをした3人の児童。▶

## こども園NEWS!

## までのりの里のこども園 願いを込めて「だんごさし」

1月15日、までのりの里のこども園で「だんごさし」が行われ、2歳児から5歳児の子ども達が手作りの「だんごさし」を楽しみました。団子を丸める作業は各学級で行われ、子ども達は「ふわふわするね」「お米のいい匂いがするよ」と言葉を交わしながら、たくさんの団子をつくりました。また、茹でる様子も観察し、ピンクや黄色、緑など色とりどりの団子を大きなみず木の枝に挿しました。やがて美しい「だんごさし」が完成し、地域に伝わる行事の意味やそこに込められた願いについて、先生のお話を聞きました。



ホールのステージに置かれた大きなみず木の枝に団子を挿し、皆で「だんごさし」を完成させました。

## 「フレイル」を予防しよう

2月1日の「フレイルの日」に合わせて、フレイルの予防に関する情報をお伝えします。

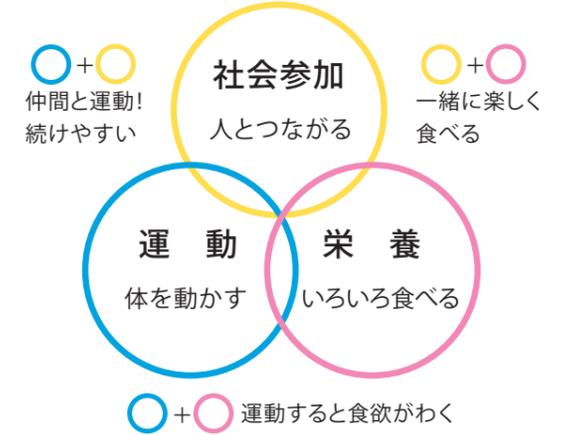
フレイルとは、加齢に伴い、心と体の働きが弱くなってきた状態のことです。

フレイルは、日々の生活において早めに対策を行うことで、予防や改善が期待できます。フレイル対策を暮らしの中に取り入れて、人生100年時代の健康寿命を延ばしましょう。



健康寿命→

## フレイル予防のポイントは3つ!



## 外出や交流で人とつながろう

友人のおしゃべり、ボランティア活動、趣味の集まりなど、外出や交流の機会を大切にしましょう。生きがいや目標を持ち続けることが、フレイル予防につながります。

## 社会参加 人とつながる



## できる範囲で、元気に動こう!

運動は筋力を向上させる他、心の健康にもよい影響があります。無理なく安全に体を動かしましょう。歩いて買い物に行ったり階段を使ったりすることも運動の機会に。

## 運動 体を動かす



## いろいろな食品を食べよう!

健康の維持には多様な栄養素が必要です。いろいろな食品を組み合わせ3食しっかり食べましょう。タンパク質が不足しないよう肉や魚も取り入れましょう。

## 栄養 いろいろ食べる



## しっかり噛んで、食べられるように

お口周りのフレイル(オーラルフレイル)は、食事や会話に影響し、全身のフレイルにもつながります。食後の歯磨きを習慣づけ、お口の中を清潔に保ちましょう。

## 口腔ケア フレイル対策に



福島県のホームページに「フレイル予防ハンドブック」をはじめとするフレイル予防の情報が掲載されています。参考にご覧ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/21045a/koureisasyokuji.html>



## 相双法人会飯館支部から 素敵な文具のプレゼント

1月12日、相双法人会飯館支部から、いいたて希望の里学園とまでの里のこども園の子ども達にディズニー文具のプレゼントがありました。長谷川長喜支部長、菅野一廣副支部長が同校・同園を訪れ、子ども達と笑顔を交わしながら、「楽しく勉強してくださいね」と文具を贈呈しました。



いいたて希望の里学園  
代表児童が贈呈を受けました。「ディズニーは人気がありとてもうれしい。さまざまな応援に感謝しています」。



までの里のこども園

おれの歌を歌いました。

## 復興事業に従事する皆さんから こども園へスピーカーの寄贈

1月12日、令和5年度飯館村特定復興再生拠点区域除染等工事作業所の職長会から、までの里のこども園へ、Bluetoothスピーカー<sup>ブルートゥース</sup>を寄贈していただきました。贈呈式では、大成建設株式会社の清水義男所長が「何か皆さんのお役に立てることはないかと考えました。楽しく使ってください」と子ども達にメッセージを伝え、園児は早速スピーカーから流れる曲に合わせてダンスを披露し感謝を伝えました。贈っていただいた5台のスピーカーは、日頃の保育や行事で幅広く活用されます。



贈呈式にて、清水所長（左端）と山崎建設株式会社・渡部匡所長からスピーカーを受け取る代表園児。

## 音楽で広がる絵本の世界 「絵本ライブ」を開催

1月21日に交流センター「ふれ愛館」で開催された『絵本ライブ』。子どもから大人まで、絵本が好きな皆さんが集まり、絵本ライブユニット「にじのかなた」による読み聞かせや歌遊びを楽しみました。音楽が彩る物語の世界に入り込んだり、歌や演奏、掛け声やダンスで共演したり、会場が一つになってさまざまな絵本の世界を満喫しました。



ウクレレや打楽器が奏でるサウンドと美しい歌声に彩られ、絵本の世界が豊かに広がりました。



## 飯館村農業委員会から 意見書の提出を受けました

12月20日、飯館村農業委員会（菅野啓一会長）から村へ、来年度の農業施策に関する意見書が提出されました。意見書は、同日の定例総会で決議されたもので、営農再開の状況や燃料・資材の価格高騰などを踏まえて、「営農再開に向けた事業施策の促進について」「担い手の確保、育成について」「農地の集積・集約に向けた支援について」「農業・農村の持続的発展について」の4項目にまとめられています。村は意見の内容を施策の検討に生かすと共に、国・県に対して働きかけを行っていきます。



菅野会長（前列右から3人目）から提出された意見書を手にする杉岡村長（前列中央）と農業委員の皆さん。

## 飯館村地域おこし協力隊 松尾洋輝さんが卒業

飯館村地域おこし協力隊として活躍してきた松尾洋輝さんが、3年間の任期を満了し、協力隊を卒業しました。卒業式は、12月20日に村役場で行われ、杉岡村長から卒業証書を受け取った松尾さんは、「皆さんの支えのおかげで頑張ることができた」と感謝を述べました。松尾さんは、情報発信やコーヒー販売を行うかわら、さまざまなイベントに参加したり、洋菓子ブランドの立ち上げに関わったりと多才ぶりを発揮し活動の幅を広げてきました。卒業後も村で暮らし、新たな挑戦を続けます。



卒業式には、協力隊の仲間や職員らが駆けつけ、3年間の活動を労いました。前列中央が松尾さん。

## 飯館村消防団 令和6年出初式を行いました

1月7日、いいたて希望の里学園の体育館で、令和6年飯館村消防出初式が行われ、飯館村消防団、役場消防隊の他、関係機関など合わせて115人が参加しました。式では、杉岡村長が、能登半島地震に触れてお見舞いを述べると共に、「災害時に先頭に立つ皆様には、大震災の経験と学びを生かし、自然の猛威に備えていただきたい。また、磨き上げてきた消防精神に基づき、職務に精励してください」と、一同を激励しました。また、式の後には、優良団員や永年勤続の表彰も行われました。



学園の体育館で行われた出初式。消防団員が隊列を組む、杉岡村長、赤石澤傳団長（飯樋町）らが観閲。



### 福島大学の学生と村民が世代間交流

1月18日、佐須公民館で、地区の住民12人と福島大学行政政策学類・大黒ゼミの学生20人による交流会が開かれました。学生の皆さんは事前に少人数のグループで村民の家庭を訪問し、農作業の手伝いなどで交流。当日は、訪問時の感想の発表からスタートし、それぞれがこれまでの経験や現在の悩みなどを素直な言葉で語り合いました。少子高齢化の時代に、大学生世代と高齢の住民が向き合い将来を話し合う貴重な機会となりました。



### 役場玄関に美しい「だんごさし」

1月12日、前田行政区の皆さんが、昨年に続いて役場庁舎に「だんごさし」を飾ってくださいました。「だんごさし」は、色とりどりの団子や縁起物をミズキの枝に飾り、五穀豊穡を願う小正月の伝統行事。美しく飾られた大きな「だんごさし」が入口ホール正面の階段に飾られると、辺りが見事に華やいで、来庁者や職員が写真を撮るなどして観賞していました。



### 前田行政区が研修会を開催しました

12月12日、前田行政区が研修会を実施しました。今回の研修会は、住民同士の交流を図りながら、村内外の復興状況を視察しようと企画されたもので、12人が参加しました。当日は、前田公民館からバスに乗り込み出発。蔵平地区で整備が進む木質バイオマス発電施設「飯館みらい発電所」、富岡町の「とみおかアーカイブ・ミュージアム」、浪江町の「道の駅なみえ」を巡り、各地区の復興状況を体感しました。



### おいしい唐揚げのプレゼント

12月21日、長谷川芳博さん(伊丹沢)から、まていの里のこども園といたて希望の里学園の子ども達に、鶏の唐揚げがプレゼントされました。長谷川さんは、自家農園の野菜を使った手作り惣菜や弁当を販売する店「だんらん」(福島市岡部)を経営しています。唐揚げは冷凍品で届けられ、子ども達がそれぞれ自宅に持ち帰りました。クリスマスの時期、毎年のように子ども達へさまざまなプレゼントを届けていただき、ありがとうございます。



### 図図倉庫 現代アートのだるまを展示

12月から1月にかけて、図図倉庫でだるまをモチーフにしたアート作品が展示されました。国際芸術村のある西会津町で、現代アーティストの新井毬子さんが、中学生と共に制作した作品です。神棚と1cmに満たない小さな作品の制作から始まり、素材とサイズを変化させながら2年をかけて20体を制作。高さ4mの巨大なだるまは、プロジェクションマッピングで表情が現れます。展示を終了した後、1月20日に、綿津見神社で作品のお焚き上げが行われました。



だるまも立体的  
せんべいです。  
飯館限定!  
特製の白いだるま  
で絵付けも体験。

### 綿津見神社でお正月飾りを作りました

多彩な企画で人と人をつなぐ有志のサークル「スラー」が、1月13日、綿津見神社で『稲穂せんべい飾り』のワークショップを開催しました。講師は「井上の大黒せんべい稲穂飾り」(南相馬市)の4代目、井上哲弥さん。参加者は、飾りの意味を教わり、新年に願いを込めて、美しい飾りを仕上げました。また、皆でご祈祷を受けたりぜんざいが振る舞われたり、心温まるひとときを共に過ごしました。



講師の井上さん。伝統のせんべい型も披露。



### 永井川カフェが被災地へ義援金

幅広く参加者を募り、村民同士の交流を深める『愉快な幸せカフェ永井川』。1月16日に永井川集会所(福島市)で『飯曾小唄の世界に触れる』を開催し、「飯曾小唄保存会」が製作したDVDを鑑賞しました。また、震災で多くの善意に支えられた経験を感謝を持って振り返り、能登半島地震義援金募金を実施。「被災者を支援したい」と4万2,086円を集め、福島民友新聞社を通じて被災地へ送りました。



### ライオンズクラブからホームに花

12月25日、飯館ライオンズクラブ(佐藤真弘会長/二枚橋・須萱)から、特別養護老人ホーム「いたてホーム」に贈り物が届けられました。贈り物は、ピンク色のグラデーションが美しいシクラメン12鉢と、純白のアンズリウムです。同クラブのメンバーから花を受け取った入居者の皆さんは、「きれいですね」と笑顔を浮かべて花に見入っていました。ちょうど見頃の鉢花は、それぞれよい場所に飾られて、施設内をやさしく彩りました。

### 能登半島地震の被災地へ職員を派遣

1月1日に起きた能登半島地震の被災地である富山県氷見市へ、村は1月15日から21日まで、高橋栄二建設課長、糯田文也村づくり推進課商工観光係主査を派遣。2人は現地対策本部の指揮下に入り、住家被害認定調査にあたりました。

派遣期間が終了し無事帰庁した2人は現地の様子を報告。「東日本大震災では全国の皆さんに助けられました。短期間ではありましたが少しでも皆さんの役に立ちたいという思いで任務にあたりました」と活動を振り返りました。



### 遠藤哲教育長が急逝

1月24日、飯館村教育委員会の遠藤哲教育長が亡くなりました。

遠藤教育長は、東日本大震災が起きた平成23年の8月から平成25年度に旧飯館中学校

の校長を務めました。中学校では、後の「ふるさと学習」の原形となった「仮設住宅訪問」を開始し、「しなやかに現実を受け止め、やがて跳ね返す力を持つ、竹のように生きよう」と子ども達を励まし続けました。また、令和元年度からは教育長に就任。小中学校の統合や令和2年度の義務教育学校開校などに力を尽くし、令和4年度から2期目を務めました。

謹んで哀悼の意を表します。

### 人権擁護委員 感謝状及び委嘱状伝達式

1月22日、法務大臣感謝状及び新任人権擁護委員委嘱状伝達式が行われ、福島地方法務局・宗像邦勝相馬支局長が、退任する藤井美奈子さん(上飯樋)に法務大臣感謝状を、大澤和己さん(上飯樋)、高木久子さん(大倉)に1月1日付の委嘱状を伝達しました。任期は3年間で、人権活動のさまざまな場面でご尽力をいただきます。



式は村役場で行われました。前列左から藤井さん、大澤さん、高木さん。後列左から宗像支局長、杉岡村長。

### 飯館村教育委員に 高橋さんを任命

1月4日、飯館村教育委員の辞令交付式が行われ、高橋世津子さん(草野)が新たに任命されました。教育委員は、自治体の長が議会の同意を得て任命するもので、飯館村教育委員会には、高橋さんを含め4人の教育委員が在籍しています。高橋さんの任期は令和6年1月1日から4年間です。



左から杉岡村長、高橋さん、高橋祐一教育委員(教育長職務代理者)。式には村幹部にも出席しました。

### 1月の村の動きと主なできごと

- 4日・仕事始め式(交流センター「ふれ愛館」)
- 6・7日・飯館村子育て支援センター 開放(飯館村子育て支援センター)
- 7日・令和6年飯館村消防出初式(いたて希望の里学園体育館)
  - ・令和6年飯館村二十歳の成人式(交流センター「ふれ愛館」)
- 12日・乳幼児健診(いちばん館)
- 16日・多面的機能広域協定設立総会(交流センター「ふれ愛館」)
- 18日・R399あぶくまロマンチック街道沿線自治体連絡協議会(宿泊体験館きこり)
- 19日・農業委員会定例総会(福島市・山房月之瀬)
- 21日・第3回長泥地区将来構想検討委員会(福島市・福島県青少年会館)
- 21日・絵本ライブ(交流センター「ふれ愛館」)
- 22日・法務大臣感謝状及び新任人権擁護委員委嘱状伝達式・人権擁護委員会議(村役場)
- 24日・内堀雅雄福島県知事 来村(長泥コミュニティセンター)
  - ・定例教育委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 26日・飯館村議会第1回臨時会(議場)
- 27日・新型コロナウイルスワクチン集団接種(いちばん館)
- 28日・文化財防火デー消防訓練(善仁寺)

### パパクオータ制度

村役場には「パパクオータ制度」というユニークな育児休業制度があります。男性職員の育児休業取得を原則義務化し、体験をその後の職務にも生かしてもらおうという制度です。実施は平成21年からで、国内では先駆的な取り組みでした。

村は現在、「子ども・子育て支援事業」に力を入れています。この制度のブラッシュアップも含め、子育てがしやすい、子育てに温かい村づくりを一層進めてまいります。

1月、住民課住民係の星敬主主査が、パパクオータに取り組みました。



星主査：24時間共に過ごせるかけがえない機会をいただき、職場の皆さんのご配慮に感謝しています。子どもの成長の過程を見ることができたのが大きな収穫です。妻のあさみさん・お風呂や夜間のおむつ替えなど大変助かり、育児の楽しさと大変さを共有できました。ありがとうございました。

### イタネちゃんに年賀状が届きました



イタネちゃんは毎年、年賀状が届くのを楽しみに待っています。来年はどのくらい届くかな。

1月、飯館村公式キャラクター「イタネちゃん」に年賀状が届きました。全国から、そして幅広い世代のファンから届いた年賀状は、55通(1月20日現在)。温かいメッセージと手書きのイラストに、イタネちゃんも喜んで目を通しました。「今年は、もっとたくさんの人に会えることを楽しみにしているタネ!」。

### 人事異動のお知らせ

1月15日付 住民課住民係 木幡 貴彦(旧任・までのりの里のこども園)

# 真野ダム建設

湖底に眠る故郷の歴史

## 歴史の散歩道

大倉地区がダム建設の適地であるとして、県は、昭和26年と昭和32年にダム建設の計画を発表しましたが、故郷が湖底に沈む計画に対して激しい反対運動が起こり、実施が見送られました。3度目のダム計画「真野ダム計画」が示されたのは昭和45年です。この時も住民が反対闘争委員会を立ち上げましたが、議会に提出した反対請願書が審議の末に取り下げられ、昭和49年に解散。その後の交渉をよりよいものにするため、改めて「真野ダム対策同盟会」が組織されました。同盟会は、地域全員の委任を受けて県との交渉に臨み、要求書を提出して妥結交渉を進め、昭和52年には協定書、55年には補償協定書に調印しました。

60戸が水没することになり、一部の住民は村外に転居。昭和56年には水没移転者離村式が行われ、人々も子ども達の歌「ダムに沈む大倉の里によせて」に涙し、別れを惜しみました。多目的ダム「真野ダム」は、昭和60年に、RCD工法による本体工事が始まり、平成3年6月に完成しました。周辺に体育館や橋が整備され、ダム湖は「はやま湖」と命名されました。湖畔には桜が植えられ、「森と湖まつり」や「はやま湖スポーツ少年団対抗駅伝」、花火大会などが催され、地域に愛される名所となっていました。



真野ダムは平成3年6月に完成しました。写真は同年4月に撮影されたもの。



昭和58年に建てられた記念碑。郷土愛に満ちた碑文は「真野の川」を詠んだ万葉の歌から始まります。

交流センター図書コーナーに、『第24回いいたてむら読書メッセ「コンテスト」のコーナーを設けました。寒い日が続きますが、家の中で心豊かに過ごせるよう本を読む時間を作ってみましょう。

2023年いちばん売れた児童書「大ピンチずかん」の第2弾!! 日常に起こりうる様々な大ピンチがレベル、グラフごとに書かれているユーモアあふれる楽しい絵本です。ぜひ手にとって読んでみてください。



「大ピンチずかん2」  
作 鈴木のりたけ  
小学館  
おすすめ図書を紹介します

## ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

# いいたて 10 イノサル通信

## 野生動物を撮る2

広報いいたて8月号で紹介した伊丹沢地区でのセンサーカメラ調査は、開始からもうすぐ1年になりますので、今回は第2回の報告をしたいと思います。伊丹沢以外でも動物の出没の増減には、同じような傾向があると思いますので、対策の参考にしてください。

調査概要 動物を感知して自動で撮影するカメラを10台設置

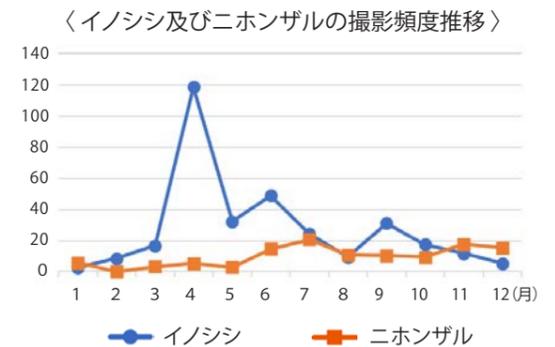
集計期間 令和5年1月21日～12月20日

今回は、被害を起こすことの多い、イノシシ(総撮影頭数938頭)、ニホンザル(311頭)、アライグマ(47頭)、ハクビシン(38頭)について、報告します。なお、グラフの数値は撮影頻度を表しています。

※撮影頻度(100晩あたりの撮影頭数) = 撮影頭数 / (設置晩数 × 設置台数) × 100晩

### イノシシ

4月は年間を通して最も多く撮影があり、撮影された半分以上が子どもでした。暑さのためか夏場は減少しましたが、秋に一度増え、その後は少しずつ減りました。イノシシは出産数が多く増えやすい動物ですので、減らすためには、母親を捕獲することが重要とされています。

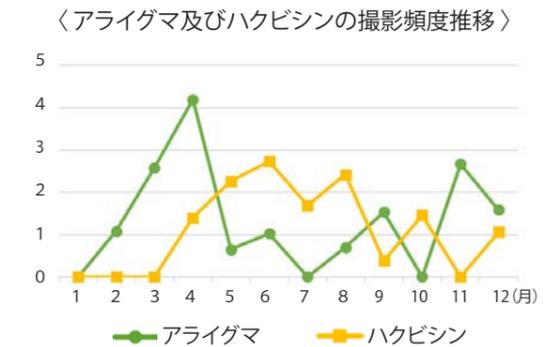


### ニホンザル

5月までは少なかったのですが、6月以降は継続して撮影されました。クリなどの実を食べるために、人家周辺へ出没したのかも知れません。なお、ニホンザルの場合は、群れによってどの時期に、どこで活動するかが違いますので、地域によって出没する時期は異なると考えられます。

### アライグマとハクビシン

イノシシやニホンザルに比べると、かなり撮影頭数は少なかったです。アライグマは春と秋、ハクビシンは春と夏に多く撮影されました。被害としては、どちらも家屋侵入と果樹等の食害を起こします。特に子育ての時期である春は、家屋被害が多く報告されます。



調査により、少しずつ地域での動物の動きが分かってきます。今後も調査を継続し、撮影数が多い場所での捕獲検討など「対策への活用」や、出没数が減ったかなど「対策の効果の確認」をしていきたいと考えています。



撮影例 子連れのイノシシ(令和5年4月14日)



撮影例 群れで動くニホンザル(令和5年9月13日)

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

鉄谷 龍之 さん

平成31年4月から同支援員。令和3年から飯館村の鳥獣対策に携わり、今年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。

遠藤哲教育長に心からの感謝と  
哀悼の誠を捧げます

この間2期4年8か月にわたり、教育に対する深い志と情熱をもち、周囲への心使いを忘れないそのお人柄をもって、村の教育行政のために、子ども達のためにご尽力いただきましたことに、心から敬意を表し、また深く感謝申し上げます。

如何ほどの言葉をもってしても哀悼の念は尽きません。

私もまた、未来に羽ばたく子ども達のために全力を尽くしていくこと  
をお誓い申し上げます。

第18回 杉岡 誠 村長の  
愛楽故郷味

あいらくふるさとみ

能登半島地震で被害に遭われた多くの方々の御身を案ずる毎日です。皆さまにおかれましても「常日頃から備えること」「常日頃から家族と話し合っておくこと」を是非お願い致します。村としても危機管理体制を常に見直して参ります。

村では1月5日から、村内各所に義援金募金箱を設置し、村社会福祉協議会を通じた取りまとめを行っております。皆様の温かいお心をお寄せいただければ有難く存じます。

皆さまに、とてもつらく悲しいことではありますが、ご報告致します。

去る1月24日に、遠藤哲教育長が逝去されました。

東日本大震災とその後、原子力発電所事故による全村避難、村外への学校移転の中、平成23年8月に飯館中学校の校長として赴任されたのが飯館村との初めてのご縁でした。

不安を抱える子ども達や先生方を鼓舞し「厳しい学習環境は「我慢」する心を育て、多くのご支援が「感謝」の気持ちを持って」と、現状を捉え直すことから「今だから、飯館中だからできること」「感謝の気持ちで前向きな教育への取り組みをされました。」

その一端ではありますが、学校長としての2年8か月の間に、伝統文化の継承として「田植え踊り」や「民話紙芝居」、「郷土料理」への取り組みを本格化させたことが、現在の「いいたて学」のルーツとなっています。

そして平成31年4月から現在に至るまで飯館村教育長として「竹のようにしなやかに、石のようにどしどし」と、自らに誇りを持つ教育」という教育理念を柱に、村の教育の根幹を築き上げることに全力をお尽くしいただいております。

ひとのうごき

誕生おめでとう HAPPY BIRTHDAY!

赤ちゃんの名前	親の名前	行政区
菅野 優里名ちゃん	慶一さん 愛さん	関根・松塚

結婚おめでとう HAPPY WEDDING!

氏名	出身地
大和田 諒さん	小宮
菅野 裕日子さん	二本松市

ひとのうごき 令和6年1月4日現在

人口	今月(前月比)	12月1日~31日までの人口動態
●男	2,357人(-1)	転入 6人
●女	2,329人(-6)	転出 6人
計	4,686人(-7)	出生 1人
世帯数	1,812戸(-3)	死亡 8人
		(住民基本台帳人口)

おくやみ

氏名	年齢	行政区
佐藤 さとよさん	70	八木沢・芦原
杉岡 タケノさん	91	小宮
菅野 繁さん	90	小宮
佐藤 ナミヨさん	103	大倉
熊川 清美さん	70	飯樋町
佐藤 ミサオさん	98	上飯樋
高橋 正人さん	87	長泥
森 永安子さん	92	前田・八和木

ご冥福をお祈り申し上げます

(令和5年12月21日から令和6年1月20日までに届け出のあったものを掲載)  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

【お詫びと訂正】1月号掲載の世帯数が1,822戸となっていました。お詫びして訂正します。

飯館村地域おこし協力隊がつづる いいたて DIARY



こんにちは、協力隊の横山です。  
私が初めて入隊した時は全部で5人いた協力隊も気付けば私ひとりに…!(先輩方は3年の任期を終え続々と卒業してしまいました)

最近横山やたら広報に出てくるな、と思った皆様。今まで協力隊で順番に回ってきたこのページ、3月までまた私です。どうか温かい目で見守って下さい。

お店をオープンして半年経ちましたが、この村に貢献できているのかたまに不安になります。

「協力隊がこんな事してくれたら助かる!」みたいな事ありますか?ぜひ教えて下さいね。



地域おこし協力隊 横山 梨沙さん

コーヒー屋の食堂 飯館村草野字大師堂65  
営 水・木・金曜日  
時 午前11時30分~午後2時(日替わりランチ)  
午後3時~午後5時(カフェタイム)  
※土・日曜日のカフェは冬季休業中です。

村民広報委員  
ふじおさんの  
いいたて 宝さがし

第19回 雪の降った日に

うっすらと雪が降った日の朝。  
今回は綿津見神社の多田宏さん・保子さん夫婦(宮内)を訪ねてきました。社務所の前の雪は綺麗に掃かれていて、とても気の引き締まる思いでした。

多田さんは大学卒業後、石川県白山市の「白山比咩神社」で2年間ほど神職を務めたそうです。話の中で、現在の石川県の能登半島地震のことを本当に我が事のように心配されていました。石川県から戻られた後は、飯館村の役場に入り、主に教育委員会で働き、「3巻の村史づくり」や大倉の発掘調査の一翼を担ったそうです。どんなにか根気のいる仕事で、どんなにか大変な作業だったろうかと思いました。



10年間ほど役場に勤められた後は、綿津見神社の宮司となり、その間保護司やボーイスカウト、本の執筆なども数多くされたそうです。現在は息子の仁彦さんに宮司を譲られました。

奥さんの保子さんは花が好きで、龍生派花道の教授だそうです。時間が出来たら2人でゆっくりとした時間を過ごしたいとも言っていましたが、時間がとれないとも話してくれました。

宝話は、おふたりの思い出話の中にいっぱいあったように思いました。



「いいたていちごランド」で子ども達がイチゴ狩り

佐藤博さん・洋子さん夫婦から子ども達への贈り物

「いいたていちごランド」(佐藤博代表/二枚橋・須萱)で、村に通園・通学する子ども達がイチゴ狩りを体験しました。

今回のイチゴ狩りは「クリスマス期の出荷に合わなかったイチゴが実っていて、苗の植え替え前に、せっかくだから子ども達にお腹いっぱい食べてもらおう」と佐藤さんが企画し実現したものです。子ども達は「甘くておいしい」「イチゴ屋さんになったくなった」「イチゴがいっぱいで

幸せ」などと感想を口にしながら、次々に実を摘み、おいしそうに頬ばっていました。

子ども達を見送り「喜んでくれてよかった。やりがいを感じたね」と笑顔を交わした佐藤さん夫婦。震災で中断した栽培をいち早く再開し、村で最初に再出荷を果たした農作物が佐藤さんのイチゴ「雷峰」です。困難を乗り越えてきたハウスに、子ども達の笑顔がまぶしく輝いた2日間でした。



子ども達を笑顔で迎える佐藤さん夫婦。イチゴの摘み方をやさしく教えていただきました。



までの里のこども園からは3歳以上児が1月11日に訪れました。甘いイチゴに思わずにっこり。



いいたて希望の里学園からは1月16日に1・2年生が訪れました。広いハウス内でいきいきとイチゴ狩り。



主にケーキなどに使われる2品種「雷峰」「すずあかね」合わせて約1万株を栽培している広大なハウス。



ご利用ください！ 飯館村生活応援商品券

1世帯あたり 3万円分の商品券  
(1,000円券×30枚)

物価高騰の影響を受けている家計への支援、地域経済の活性化を目的として、『飯館村生活応援商品券』を1月末に配付しました。対象は、令和5年12月1日において村の住民基本台帳に記載されている世帯です。商品券が使える店舗については、商品券と一緒に送付した取扱店舗一覧をご確認ください。

使用期限は令和6年3月31日

※使用期限が延長となる際は広報お知らせ版等で周知いたします。

問 村づくり推進課商工観光係 ☎0244-42-1620



〈編集後記〉

あのグループがついに飯館にも！児童の皆さんがとっても嬉しそうで、「大谷選手は来ないの?」といった微笑ましい会話か聞こえました。全校生を代表してキャッチボールをした児童は、「マジ緊張した!そう(笑)私も会ってみたいです。欲を言えばサイン...もっと欲張って握手がしたいです。(大和田)

上の段に編集後記を

書いている(大和田)さんは、先月号まで(菅野)さんでした。(すでに気づいて「あれ?」と思っていた方、編集後記まで丁寧に読んでいただいております。(大和田)さんと(菅野)さんは同一人物です。念のため報告します。詳しくは本紙P27をご覧ください(星)